

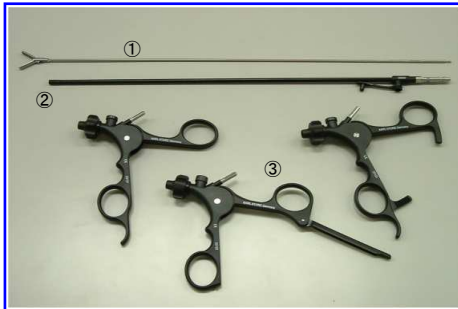
KARL STORZ CLICK^{line}™ 器具の脱着と作動チェックの方法

このマニュアルは代表的な CLICK^{line}™ 器具の組み立て方と作動のチェック方法を掲載した簡易マニュアルです。

安全にご使用いただくために、本マニュアルを常に傍に置いてご活用下さい。

さらに詳しいメンテナンスマニュアルを別途ご用意いたしております。併せてご熟読いただきご活用下さい。

【基本構成】



5 mm・10 mm 径の CLICK^{line}™ 器具は以下の3点で構成されています。

- ① インサート
- ② アウターチューブ
- ③ ハンドル

構成にはそれぞれサイズ・用途別に多くのバリエーションがあります。

いずれも互換性があり、目的にあわせて組み合わせでご使用いただけます。

* 2/3/3.5 mm 径の器具はシャフトとインサートが一体化されています。

【組み立て方】

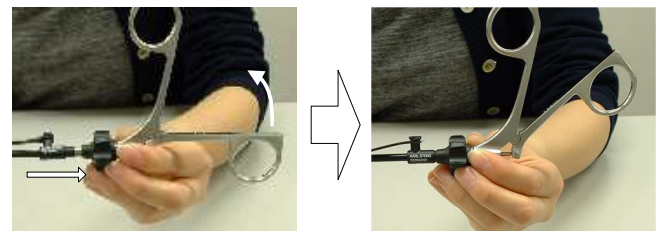
1. インサートをアウターチューブに挿入

インサートをアウターチューブの先端と接触するまで挿入し、15度くらい回転させて固定します。



2. ハンドルの取り付け

黒いハンドルも金属ハンドルも同じです。ハンドルを逆さまに向け、**全開状態**にしなが**ら、可動部がフリー**になるようにローテティングホイールだけを把持してシャフトを押し込みます。確実に固定されると、**カチッ**というクリック音とともに、ハンドル可動部が押し持ち上がります。



【分解方法】 基本的には組み立て方法の逆を行います。ハンドルの可動部をフリーにした状態で**リリースボタンを押して**シャフトを抜き取ります。その際、可動部(下図 ○部)が上に跳ね上がります。



注:この可動部に指を掛けたり押さえたりした状態ではシャフトを抜き取る事は出来ません。

尚、金属ハンドルの場合には組み立てる時と同様に**逆向き**にして、ボタンを押しシャフトを抜き取ってください。

【外観・作動チェック】 組み立て完了後、滅菌前に必ず作動チェックをして、器具の安全性をご確認下さい。

(必ず拡大鏡を用いてチェックしてください)

- ① 先端ジョウにぐらつきや不具合が無いか?
- ② 先端及びシャフトにひび・欠損などが見られないか?
- ③ ハンドルの開閉及びローテーションはスムーズか?
- ④ インサートを引っ張っても抜けないか?
- ⑤ 電極コード接続口に緩みはないか?



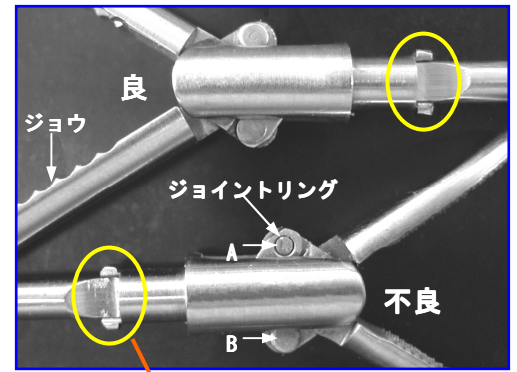
【チェックポイント：インサート】

● 先端のチェック **Note-1**

インサートの先端は、非常にデリケートに出来ています。

次の場合には**使用を中止**してください。

- ① ジョウにぐらつきや欠損などがある。
- ② ジョイントリングおよびその輪郭が明らかに黒く浮き出ている。
* 右図参照 A:リベット研磨側 B:リベットの頭側
- ③ ロッキングデバイス(黄色円の部分)破損している。
爪が2個ある事を確認してください。



注：正常状態でも過度の力を掛け過ぎると破損脱落の原因になります。術前を含め術中のチェックをお願いします。

重要！

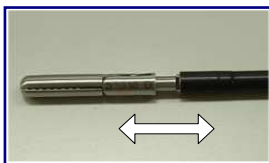
【両開きタイプのインサート部分につきましては1年もしくは30症例のうち短い方での交換を推奨しています。】
【作動チェックの後に、専用オイルを可動部に塗布してください。】

【チェックポイント：アウターチューブ】

● インサートの引き抜きチェック



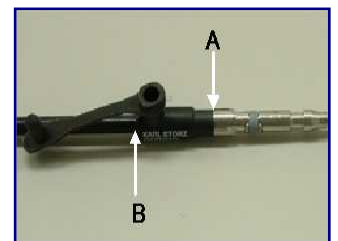
組み立てが完了した状態でアウターチューブのローテーティングホイールを把持し、インサート先端を反時計回りに回転させながら引き抜くような負荷をかけます。また、ハンドルを動かしながら、同様のチェックを行います。



左図のように先端が抜ける場合アウターチューブの不具合が考えられます。使用を中止し、新しい物と交換してください。

● 緩みチェック

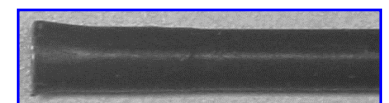
右図アウターチューブのA部およびB部の付け根に緩みがない事を確認します。この部分に緩みがある場合には使用を中止し、アウターチューブを交換します。緩んだ状態で使用すると、鉗子が開かなかつたり、ハンドルが抜けなくなる等のトラブルが生じます。



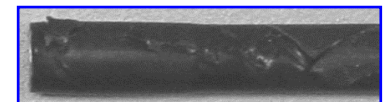
● アウターチューブ外装(外観)のチェック

① 外装(特に先端部)のチェック

アウターチューブの外装(絶縁被膜)は、使用により劣化します。**剥がれ、めくれ、亀裂、傷等(右図の状態)**が認められた場合直ちに使用を中止し、新しい物と交換してください。



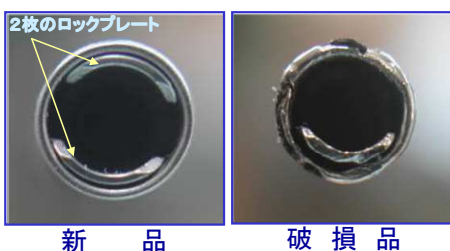
先端部が膨らんだ製品



剥がれ、亀裂、傷を有する製品

② 先端部ロックプレートのチェック

Note-2



先端部を正面から見て、内部の2枚のプレートの有無及び、剥がれ具合を確認し、左記写真のように、1枚無くなっていたり、隙間が生じているような場合には、使用を中止して新しい物と交換してください。

1枚の状態で使用した場合、ロックプレートが脱落する危険があります。また、先端に変形が無い事(真円である事)を確認してください。

重要！

【アウターチューブにつきましては2年での交換を推奨しています。】